

クリップ通信

令和2年7月1日 第9号

〒180-0006

武蔵野市中町 1-34-3-409

代表取締役 林 暢介

編集者 松田 美幸

◆◆◆ 2020年度の取り組み ◆◆◆

株式会社クリップ 代表取締役 林 暢介

最近、私は子ども科学電話相談にはまっています。昔と変わらず、日常生活で起こる様々な不思議なことを小学生がその分野の専門家の先生に電話相談するやり取りをラジオで聞く一視聴者として、一喜一憂しています。「アリはなぜ力持ちなのですか?」「一番強い恐竜は何ですか?」といった私では到底思いつかない質問に専門家の先生がその回答に苦慮する場面も微笑ましいと感じています。



植物、昆虫、宇宙とその先生方の専門分野は異なりますが、子ども達に必ず「どうしてそう思ったの?」と質問してから、回答するよう心がけていることです。例えば、「アリはなぜ力持ちなのですか?」では、「アリが巣にえさを運んでいるところを見たの?、それとも・・・」といった子どもが疑問に思った場面を知ることが先生方は大切にしていることがわかります。子どもたちがその場面を見て、疑問に思い、子ども科学電話相談に相談し、回答を得るといったプロセスを見つめ直すと、クリップの評価が目指している【現状】【課題】【目標】の流れそのままじゃないかと、自宅の芝の雑草をピンセットで抜きながらはたと膝を叩きます。

【現状】から【課題】を見出し、それを解決する【目標】を設定するという一連の流れは、クリップの評価を支える背骨として成長して来ました。「課題が明からになった」「わかりやすい」といった声も数多く聞かれ、段々とお客様からも受け入れられて来たと感じています。そしてお客様のさらなる要望に応えるため、使命感を持って対応しなければならないとも感じています。

そこで今年は・・・、新たな取り組みのスローガンは「**浸透**」とさせていただきます。

経営層の重点取り組みが果たして管理職、常勤職員、非常勤職員、そして利用者にも、どこまで浸透しているかを【現状】として見極め、果たして滞っているのであればどの層なのか、その原因は何か?を追求できるよう以下の通り新たに工夫しています。

- ① 事業プロフィールには、今年度の重点的な取り組みの記載欄を設け、経営層に記載してもらいます。
- ② 経営層自己評価票には、前回の評価で見出した課題の進捗状況の記載欄を設け、経営層に記載してもらいます。

- ③ 職員アンケートは出来る限り、常勤・非常勤、リーダー・一般職といった区分でアンケートを取ります。
- ④ 利用者アンケートでは、対応するカテゴリ番号を記載し、経営層自己評価票や職員アンケートの結果とわかりやすく照合できるようにします。

以上を新たな取り組みとして、お客様や評価者の方々に試して頂き、そして良し悪しを判断して頂きますようよろしくお願い致します。



◆◆◆ 悪魔か? 仏か? ◆◆◆

グループホームのがわ
ホーム長 大岩 謙介

クリップさんへ第三者評価をお願いしたのが平成24年、当時の私は2つあるユニットのうち1つを任されているユニットリーダーという立場でした。

林さんによるインタビューを受けた私は、激しく打ちのめされたのを記憶しています。

『君は自分のユニットをどんな風にしていきたいの?』『地域と繋がるって言うけど、地域って何?』次々と繰り出される質問への答えに詰まり、次第に無言となっていく私。しかしどれだけ時間が過ぎても、林さんは話題を変えてくれずにじっと私を見つめてくる。何とか絞り出すように答えを述べても、その薄っぺらい内容が通じるわけもなく『ん～。そうかなあ～。』『本当にそう考えてる?』と切り返されて撃沈。『だめだなあ。』林さんに会いたくなくて、早くこの時間を終えたかった私は、暗黒のオーラ全開でフィードバックを受けていたのではないのでしょうか。

最も印象に残っている林さんの言葉は、『僕たちは、君の敵じゃないよ。』と・・・私は、『んなあわけあるかい!』と心の中で思いました。

それでも次の年にも林さんはやってくる。

前回、答えの用意ができなかった質問や指摘されていた所、少しずつでも良くしておかないと、またあの地獄の時間が待っている。なんて不純な動機で取り組んでいたのかと反省しますが、林さんの言葉が頭から離れなくて、普段の仕事ひとつひとつに引っ掛かる(疑問に思う)ようになり、考えていく習慣がついてきました。

年月を経てリーダーから主任、ホーム長となってからも・・・林さんから。

『大岩君が大事だと思っていることを、職員へ伝えていくにはどうしたらいいと思ってる?』『まだまだかな!(林さん笑)』

初めは魔王に思えた林さんでしたが、今は『敵じゃない』と私も感じています。

今後も自分の見えていない部分を洗い出してもらい、自分の成長と事業所の改善、入居者の方々の幸福に繋がる手助けをお願いできる、パートナーとしてお付き合いをしていきたいと考えています。

株式会社クリップホームページ URL:<https://clip-net.com/>

QRコード:



連日、新型コロナウイルスについて報道がされており、経済不安や自粛生活のストレスなどで皆様の生活状況に変化をもたらしていると思われます。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを、一部ではありますが評価者でもある竹村さんにつづって頂きました。



◆◆◆ 新型コロナウイルス感染症の対策について ◆◆◆

社会福祉法人練馬区社会福祉事業団
上石神井特別養護老人ホーム
看護師 竹村 恵子（評価者）

パンデミックスを引き起こしている新型コロナウイルスは、皆様もご苦労されていることと思います。私の所属する福祉施設は開所から8年間、基本の「標準予防策」を確実に行うことで感染症が一度も出ていませんでした。今回はこれまでのレベル以上の対策を求められていましたので2月8日から即座に新たな感染防止対策を進めました。

① 感染経路の遮断

入居者、職員健康チェック・マスク・体温測定・館内の指の触れる全ての消毒3回/日・換気・1行為1手洗いの励行を行いました。

② ショートステイの感染経路の遮断

利用者の入居1週間前から検温を依頼し、ショートステイのユニット職員は専任とし、他ユニットの往来はストップしました。

③ 家族面会の規制（2月19日から実施）

看取り介護も行っている中、苦肉の策で、ご家族への理解を得ました。

A: 受付ガラス越しで姿を見ながら子機通話でコミュニケーションをとる方法。

B: 居室のベッドをベランダ側に移動し家族は外から姿を見ながら子機通話で話す方法。

また、入居者の笑顔の写真を撮影し家族へ送り、看護師からは身体状況を定期的に電話で報告をしています。

マスクや消毒液が少なくなった時、家族からの寄付をいただき助かりました。

④ 利用者介助の中で、職員同士の感染経路の遮断

感染者が出る前から濃厚接触者が最小限度になるような小集団を作りました。

- ・感染者が出ても施設運営が維持できるようゾーン分けし介護士や看護師の行動範囲を制限しました。
- ・職員や入居者と蜜を避ける介護の工夫（食事介助やトランス方法の工夫）状況に応じてフェイスシールドなどの活用をしています。
- ・万が一のため、防護服の着脱の研修（演習とビデオ視聴）行いました。
- ・職員への意識が低下しないように（症状が顕れていないだけで、感染しているかもしれないとの意識を持つよう）感染症語録のポスターやスローガンを週に1~2回新たな標語を作り発信し続けました。
- ・職員同士ソーシャルディスタンスを守り、職員の休憩コーナーを増やしパーテーションで区切る等しました。

【利用者の不安の軽減】

こんな状況の中でも笑いを求めマスクでスマイルの応募で写真を掲示しマスクに絵やシールを貼って入居者に笑顔が伝わるようにしました。

【ボランティア対応】

40名余りのボランティアの活動も2月から中止しました。

5月に入り「絆」を繋げる意味で自粛生活のお見舞いと再会を心待ちにしている気持ちをハガキでお伝えしました。

【緊急事態宣言解除後の家族面会】

6月からの面会は、予約制で1日4組まで。場所は1階相談室限定で、面会者は原則1人、面会時間は15分。事前の検温、消毒はもちろん、面会中も窓と入り口を開放し換気し、飛沫感染防止のためのビニールカーテンをテーブルの真ん中に設置、1組ごとにテーブルなどを消毒しています。

【家族面会について2020/06/10の朝日新聞に取り上げられました。】

評価者としての私の感想、心得。

- ・接触、消毒など過度な対応になり過ぎないようにバランスが大切です。
- ・面会制限も対応一つで人権擁護が崩れがちで気を付けなければなりません。
- ・感染症が多く発生するか否かは施設の質が顕れます。
- ・感染症の予算や対策、職員研修、家族への啓発の内容等を再確認する必要があります。

今回のコロナウイルスに関してのエキスペートはいません。トップダウンだけではダメなのです！ボトムアップで頑張ろうと日々闘い続けています。今後、2波3波の油断はできません。法人全体で取り組んでいます。職員のモチベーションが低下しないようにと対策の継続、心身疲労のフォロー等課題と言えるでしょう。皆様もどうか気を付けてご自愛のほどお祈りいたします。

◆◆◆ ご支援をお願い申し上げます ◆◆◆

取締役 味田村 正行

2000年に創業してクリップは20年目の節目の年を迎えています。現在は過去の足跡であり、未来への一歩とも言えますが、クリップも多くの人々のご縁により、今の姿になっており、改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

節目の年は、コロナウイルスにより慌ただしく半年が過ぎました。宇宙の摂理には人間はただ受容するほかありませんが、人間が出来ることは未来の在り方を智慧でもって想起することだと言えます。

今回の事態で世界の相互に一体化した関係、かけがいのない命の大切さ、第三者評価にも関係するリスクマネジメントの重要性、更に自然界と共生する新しい社会の創造等が認識されたと思います。

クリップとしても「共に学び、共に歩む」の理念をもって、新たな社会の構築にクリップなりに貢献して行きたいと考えております。引き続きの皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

